

第三者評価結果

事業所名：津久井やまゆり園

自己評価結果

a ○
b
c

A-1 利用者の尊重と権利擁護

A-1-(1) 自己決定の尊重	第三者評価結果
【A1】 A-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a

<コメント>

法人の基本理念である人権に根差した利用者本位の考えに基づき支援をしている。特に意思決定支援に力を入れている。年2回、意思決定支援担当者会議を開催し、利用者が何がわかって何がわからないか、何に興味を示したかなど、利用者の行動や表情を確認して、ヒアリングシートに記入している。さらに本人シートに落とし込み、その中から本人の好きな物や希望することなど、ニーズを明確にし、支援の仕方を検討して実施している。言葉や何らかの方法で、自分の意思を伝えられる利用者は約8割いる。その他の利用者は、職員が投げかけたことについて理解しているかを見極め、写真や現物を見せて、表情や態度から思いを汲み取るようにしている。

A-1-(2) 権利擁護	第三者評価結果
【A2】 A-1-(2)-① 利用者の権利擁護に関する取組が徹底されている。	a

<コメント>

利用者の権利擁護については、マニュアルや園規程に明示している。年1回、権利擁護の全体研修を開催している。生活課のグループ会議の中で、支援に対して困り感が出た時には、権利侵害が起きないように、支援の方法を具体的な例を出して検討している。園外からは中に入れないが中からは外に出ることができる、ガチャガチャと扉を開ける音が他の利用者の迷惑になるなど、具体例をあげて検討している。どこにでも行ける自由な生活ではあるが、権利にはルールを守る義務があり、それが守れない、理解ができない場合どのように関わるか、どのような声掛けが適切かなどを、検討し合っている。権利侵害が起きた時のフローチャートがあり、職員に周知している。ユニットには、見守りカメラを5台設置している。

A-2 生活支援

A-2-(1) 支援の基本	第三者評価結果
【A3】 A-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a

<コメント>

生活の中で本人ができること、難しいことを確認し、できるところは職員が見守ることで、利用者の自立支援につなげている。文字や写真を使って、その方に合った方法や、構造化（生活場面において環境設定やスケジュールの提示などで何をすべきかをわかりやすく提示する方法）などにより、見通しが立てられ、自分で管理できるよう支援している。日中活動には紐通しや袋詰めなどがあり、利用者は何に取り組むか自分で決めて行っている。

【A4】 A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	a
--	---

<コメント>

会話ができない利用者がほとんどであり、言葉でのコミュニケーションが困難な方には、ジェスチャーや文字、絵、写真などを提示しながらコミュニケーションをとっている。言葉でのコミュニケーションが困難で、コーヒーが好きな利用者が、園の外に出ていってしまうことがあった。スーパーの前で見つかったり、自動販売機の近くで発見されたりした。グループ会議で対応方法を検討し、1週間の予定を利用者と一緒を考え、曜日ごとに、自動販売機でコーヒーを買う日、お店で飲む日、ユニットで飲む日などを決めている。曜日は色分けして、本人が理解できるか確認しながら行った結果、外に出ることは解消している。また、別の利用者には、本人の思いを確認するため、笑顔の顔マークや困った顔マークを提示して指差しで選んでもらっている。利用者それぞれに合ったコミュニケーション手段で対応している。

【A5】 A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	a
--	---

<コメント>

意思決定支援の担当者会議を開催し、利用者一人ひとりが望む暮らしの実現に取り組んでいる。利用者は生活の中で、担当職員に希望を直接話すことが多い。利用者自治会の「ビザの会」を開催し、会長や副会長を中心に、利用者の希望などを聴く機会を設けている。「ビザの会」には、あおぞら委員会の委員も参加し、利用者の声や希望を園の運営会議に報告し、内容を検討している。

<p>【A6】 A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 紐通しやベグ差し、マッチングブロック、紙の型抜き、袋詰めなどの日中活動があり、また、散歩や園芸、野菜作りなどの園外活動がある。利用者一人ひとりの希望に沿い、個別支援計画に基づいて支援している。余暇としては、雑誌を読む、キャッチボールをする、ジュースを買いに行くなど、それぞれが好きなことができるよう支援している。また、タオルやシーツたたみの手伝いを積極的に行っている利用者もいる。支援内容は個別支援計画書に落とし込んで、計画に沿って実施している。</p>	
<p>【A7】 A-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 大声やパニック、破壊行動、他害、自傷などの行為が見られる利用者がある。壁を叩く、物を投げる、蹴るなどの行動障害がある利用者に対しては、不適切な行動は利用者にとって必ず原因があると捉え、毎日の支援の中で原因を探っている。今年度コンサルテーション事業を利用し、チェック表により、何が出来るか、何ができないかを確認している。分析の結果から、支援方法が提示される予定である。</p>	
<p>A-2-(2) 日常的な生活支援</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A8】 A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 食事は外部業者に委託し、園内の厨房棟で調理している。生活1、2、3課それぞれに温冷配膳車を使用し、温かいものは温かく、冷たいものは冷たい状態で食事を提供している。利用者にアンケートを取り、希望のメニューを献立に反映している。常食や1cm刻み、8mm刻み、極刻み、ペースト、トロミと6段階の食事形態で、食事を提供している。約半数の利用者は自力摂取が可能であるが、見守りが必要な方や、むせこみや嚥下状態が困難な方もいる。また、全介助の方も数名いるが、利用者個々の食事手順書の作成までには至っていない。入浴は一部介助を行う方がほとんどである。入浴用車椅子を使用する方や機械浴利用の方も数名いる。こだわりが強く、長湯をしてのぼせてしまう方もいる。排泄を失敗する方などには、その都度片付け、清潔に生活ができるよう支援している。個別支援計画に沿って支援を行っている。</p>	
<p>A-2-(3) 生活環境</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A9】 A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 園内はゆったりとしたスペースをとり、利用者の居室は全室個室で、明るく快適な居住空間を作っている。利用者は自由に園内を歩き来ることができる。リビングやトイレなど、共有のスペースは業者が清掃を行っている。ユニットには、ソファやテレビ、ラジカセなどを備え、利用者がくつろげるよう配慮している。どうしても掲示場所は高いところになるが、廊下には季節感のある装飾品や、思い出の写真、利用者が描いた絵などを飾っている。利用者の高齢化もあり、前のめりに転倒する危険性があるため、テレビ台などの角を保護して、安全を確保している。各ユニットに見守りカメラを設置している。</p>	
<p>A-2-(4) 機能訓練・生活訓練</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A10】 A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 月2回、定期的に理学療法士が訪れ、車椅子の方の腕の筋力維持や立ち上がり動作、可動域の維持などの機能訓練を行っている。年齢の高い利用者も増えていることから、歩行状態や筋力維持のため、日々の生活の中で、一人ひとりの状態に応じた生活訓練を行っている。園庭はとても広く、園庭散歩でも十分な歩行訓練ができる環境を整えている。体育館でも身体を動かして、利用者の健康維持に努めている。機能訓練のため、平行棒なども揃えている。</p>	
<p>A-2-(5) 健康管理・医療的な支援</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A11】 A-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。</p>	<p>a</p>
<p><コメント> 利用者の健康状態は、毎日の検温や顔色、表情、行動などから、状態に変化がないか、ユニットの担当職員が確認している。食事量や排泄の様子からも、変化を見逃さないようにしている。食事量が減ってきた時は栄養士と連携し、栄養マネジメントにより、好きな食べ物、食べられるものを提供して、利用者の健康維持に努めている。排便のコントロールが必要な方には、看護師と連携し、緩下剤などで対応している。利用者の健康状態は、「健康記録表」や「生活記録」に記録している。体調急変時の対応は、フローチャートで手順を示している。コロナ感染症に対しては、本人はなぜ部屋にいけないのか理解できず難しい面もあったが、個室での隔離対応を行っている。</p>	

【A12】 A-2-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	a
<p><コメント></p> <p>看護師に、いつでも連絡が取れる体制を整えている。利用者が怪我をしたり、具合が悪い時など、医療処置が必要な時は、看護師が対応している。また、看護師が感染症の予防などの助言や指導を行っている。園内に診療所があり、利用者は内科や精神科、皮膚科に受診している。服薬している利用者は多く、ユニットの夜勤者が翌日分の薬をセットし、次の日、早番の職員が配薬トレーに薬を入れていく。与薬時は職員2人でダブルチェックし、口内、コップの中、床などを確認している。薬の空き袋はトレーに戻し、服薬が完全に済んだか確認している。</p>	
A-2-(6) 社会参加、学習支援	第三者評価結果
【A13】 A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>地元自治会に加入し、地域のイベントや避難訓練に利用者が参加している。地域の公民館のお祭りには、園もブースを出し、刺しゅうやコースターなどの自主製品を販売している。また、ボランティア活動として、「社協だより」を地域の事業所や商店に配布している。意思決定支援の中で、県の働きかけにより、大学生と利用者との交流「おともたちプロジェクト」を行っている。参加人数は多くはないが、話をしたりゲームをしたりして交流を深めている。絵を描いたり、字を書くことが得意だったり、パソコンができる利用者に、得意な活動ができるよう支援している。</p>	
A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援	第三者評価結果
【A14】 A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>「チャレンジ活動」を通して、地域の生活介護事業所やグループホームの見学及び体験利用を行っている。本人の希望を聞き、本人と話し合い、どこで生活したいかを決めている。希望先と連携を取りながら、まず見学や体験利用をしてみて、生活が可能であることを確認してから移行を決定している。今後、高齢化にともない、介護を必要とする利用者の地域生活移行をどのように進めるか、課題として捉えている。</p>	
A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援	第三者評価結果
【A15】 A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>家族や後見人には、園での様子や変化などを、直接担当職員が電話や文書で連絡している。家族会は、コロナ禍で中止をする場合もあった。感染防止対策として、今年度は参加人数を減らし、午前と午後の部に分けて、「祭りだ！やまゆり」を開催して、家族と一緒に楽しんだ。家族の意見や要望は随時受け付け、利用者の支援に反映している。現在、状況は落ち着いてきたため、面会は再開している。声を聴かせてほしいと電話で利用者と話をしている家族もいる。</p>	

A-3 発達支援

A-3-(1) 発達支援	第三者評価結果
【A16】 A-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>障害者の入所施設のため、評価外とする。</p>	

A-4 就労支援

A-4-(1) 就労支援	第三者評価結果
【A17】 A-4-(1)-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>障害者の入所施設のため、評価外とする。</p>	

【A18】 A-4-(1)-②
利用者に応じて適切な仕事内容等となるような取組と配慮を行っている。

<コメント>

障害者の入所施設のため、評価外とする。

【A19】 A-4-(1)-③
職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。

<コメント>

障害者の入所施設のため、評価外とする。